

## 2018年度 東海地区協議会図書館実務担当者研修会 記録

日 程：2018年9月6日（木）～7日（金）

場 所：日本福祉大学 東海キャンパス

参加者：23大学51名

愛知大学、愛知医科大学、愛知学院大学、愛知工業大学、愛知産業大学、愛知淑徳大学、岐阜医療科学大学、金城学院大学、皇學館大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学、名古屋学院大学、名古屋経済大学、名古屋女子大学、名古屋造形大学、南山大学、日本福祉大学、人間環境大学、藤田医科大学、名城大学

### ■スケジュール

【1日目】10時30分～16時50分

1. オリエンテーション、会場校挨拶、講師紹介
2. 【グループワーキング】

【2日目】10時00分～16時30分

1. 【グループワーキング】
2. 【全体会】
  - 全体発表
  - 各グループ講師総評
  - 質疑応答
  - 閉会



### ■講師紹介（敬称略）

ワーキングA担当

同志社大学免許資格課程センター准教授

佐藤 翔

ワーキングB担当

国立大学法人三重大学地域人材教育開発機構

大学図書館・学習支援部門／附属図書館

研究開発室准教授

長澤 多代

ワーキングC担当

草津町教育委員会事務局係長

中沢 孝之

### ■ワーキング概要、グループ発表

（1）ワーキングA



- 1) テーマ：レファレンスツールとしての電子資源・インターネット情報の活用法
- 2) 発表者：愛知淑徳大学 遠藤 龍子  
名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 東槇 典子  
名古屋学院大学 太田 絵美  
名古屋学院大学 加藤 愛
- 3) 内 容：

レファレンスツールとしての電子資源及びインターネット情報の活用法について、講義とワークを通して学んだ。

1日目は、オンライン情報源の特性と評価について、オンライン情報源のWebサイト評価

インベントリー Website Evaluation Inventory (略称 WEI) を用いた評価の方法、大学図書館の奉仕対象となる現代の大学生の情報検索行動とレファレンスインタビューについての講義を受けた。その後、1日目のまとめとして、無料で提供されているオンライン情報源から回答を入力し、情報源を WEI で評価の後、レファレンス回答を作成するワークを行った。

2日目は二人一組でのワークを行った。ワークでは質問者に初学者を想定したレファレンスインタビューを実施。レファレンス回答を無料で提供されているオンライン情報源のみで作成した。回答の評価指針として WEI を使用し、互いの評価結果を比較・検討した。

成果発表として、4名の受講者代表が WEI で評価・レファレンスインタビューのワークを通して得た新たな知見、今後の業務への展望について発表した。

## (2) ワーキングB



- 1) テーマ：学修支援・利用教育
- 2) 発表者：愛知学院大学 鳥居 三加  
愛知学院大学 吉賀 大介  
愛知工業大学 出川 可奈

### 3) 内容：

ワーキングBでは、利用教育、学修支援をテーマに2日間に渡って、講師による講義、グループワークを行った。

1日目の講義では、大学教育改革の背景や、情報リテラシー教育の方法、教員や学内の関係者との連携について学び、また、グループワークでは各自、事前に調査した所属大学のポリシー等を参考に、それぞれの大学のニーズにあった情報リテラシー教育プログラムを計画し

た。

2日目は情報リテラシー教育の評価についての講義を受けた後、再度、グループを編成し直し、プログラムの詳細について検討、ディスカッションしてプログラムを完成させた。成果発表としてグループから代表者3名が2日間で作成した情報リテラシー教育プログラムを発表した。

## (3) ワーキングC



- 1) テーマ：危機管理 (迷惑行為、防災・減災対策)
- 2) 発表者：名古屋外国語大学・名古屋学芸大学  
権 載喜  
人間環境大学 松田 繭  
中部大学 吉田 文枝  
愛知医科大学 榊原 佐知子

### 3) 内容：

ワーキングCでは、参加者を4つのグループに分け、各グループを「同じ図書館に勤務する同僚」という設定で(二日間固定)、危機管理における「図書館員の対応力を磨く」をテーマとしたグループワークに取り組んだ。

1日目は「人によって引き起こされる危機」をワークテーマとして、勤務中に起こりうる様々な人的なトラブルや事故を想定した内容で協議した。

2日目は「自然によって引き起こされる危機」をワークテーマとして、大地震・津波・停電などが発生した直後から、どう行動するのか、どこに避難するのか、誰を助けるのか等を事細かくかつ分刻みでの対処法を協議した。

尚、両日共に各グループ代表者1名が発表を行い、発表後はロールプレイングの実践による発表内容の検証、講師からの総評ならびに助言

により、最善の対処方法について情報共有を行った。

## ■全体講評

### (1) ワーキングA

[佐藤 翔氏]



受講生の皆さんには2日間のワークで Website Evaluation Inventory (WEI) を体験したことにより、インターネット情報源をレファレンスに用いることができるかどうか、評価の際に注意すべき観点について体感していただけたのではないかと思います。

WEI そのものを毎回使うかどうかとは別に、評価の観点を体得していることは有益だろう。

また、レファレンスインタビューのワークにより回答する図書館員だけではなく、質問者側の学生の気分も味わっていただけたことは、思わぬ効果であった。

### (2) ワーキングB

[長澤 多代氏]



参加者は、大学教育改革の背景や情報リテラシー教育の方法について理解を深めた上で、事前課題と

して調査した所属する大学の情報をもとに、各大学に適した情報リテラシー教育のプログラムを設計しました。最初は、各大学の文脈からニーズを把握することを難しく感じた参加者もいましたが、グループで話し合いを重ねる中で、少しずつ自信を持てるようになったようでした。最終的には、どのチームでも活発な議論が展開され、各大学にカスタマイズした特徴のある情報リテラシー教育を設計することができました。

### (3) ワーキングC

[中沢 孝之氏]



大学図書館の内外で起こりうる危機を2日間に渡り参加者で話し合い、対処を探った。この中で①女性やアルバイトなど、少数の体制であること②一般開放を行った結果、手強い来館者に対応できていないこと③自然災害に対して何ら対処がされていないこと、特にこの3点が浮き彫りとなり、公共図書館以上に多くの危機に直面していることが分かった。

危機管理は常に具体的に対処を考え、組織で考えていく必要がある。また様々な館の職員とも議論を交わしたことは、参加者にとっては不安を払拭する良い機会であったと思う。

---

記録：菅野 均美 (南山大学図書館)